

令和3年12月3日

令和3年度 大阪府立羽曳野支援学校 第2回 学校運営協議会

進行 福積

記録 森本

日時 令和3年12月3日(金) 15時～17時

場所 大阪府立羽曳野支援学校 図書室

参加者 中條委員 亀田委員 平賀委員 井上委員 平井委員

大門校長 福積教頭 森本教頭 川野事務長 多田首席 和田首席 岡田首席

黒川教諭 大林教諭 谷口教諭 西垣教諭

1 校長挨拶

本日は、ご多用の中ありがとうございます。医学の進歩等によって入院期間が短くなったことで、今、病弱教育のあり方について考える時を迎えております。また新型コロナウイルス感染拡大の影響も踏まえて、本校としても児童生徒のために試行錯誤しながら教育を考えていきたいと思っています。本日は、そんな状況の中での実践を紹介させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

2 協議

①はびりんピック について (岡田首席)

- ・実施目的、種目選択のポイント
どこでも誰でも参加できる内容である。
- ・実施の様子
児童生徒は積極的に参加することができた。
- ・今後の方向性
体育関係だけでなく、数独大会やコンクール等といった違う教科的要素も取り入れ、分教室交流を活発化していきたい。

(平賀委員)

- ・病弱教育における体育は制限されることが多いが、その中で先生方が工夫された取り組みはとても素晴らしいと思う。児童生徒の楽しい様子からも伝わってきた。

(平井委員)

行事を通して児童生徒だけでなく教員も成長するということを実感していることから、私の勤めている学校では分散という形にしてでも運動会を実施した。はびりんピックの取り組みをみて、そのことを思い出した。

(亀田委員)

ハンディキャップがあっても活躍する場が年々増えてきているように思う。自分ができることを見出し自信がつくことによって、周りの人も元気にしてくれるのでとてもよいことだと思う。こういった取り組みを継続していくことを期待している。

(井上委員)

病弱教育は身体的制限が多いが、そんな中で先生方が様々工夫されていることに感銘した。コロナ禍にあって精神的に触れ合う機会が少なくなったこともあり、こういった取り組みは貴重であると思う。

(中條委員)

今、新型コロナウイルス感染拡大が少し落ち着いていることで、羽曳野荘でも行事をしたが、一体感の大切さや子どもたちの笑顔の素晴らしさを改めて思った。行事は普段みえない子どもたちの様子がわかることから、今後もこのような取り組みを続けてほしいと思う。

②結核で入院中の児童生徒への遠隔授業について（黒川教諭）

・遠隔授業の試行実施に至るまで

医師から対面授業の許可が下りるまでは、プリント学習のみであったが、病院側から更なる学習保障として遠隔授業の提案があった。

・遠隔授業の利点

児童生徒の実態把握がしやすく、実態に応じて課題も設定することができた。学習保障だけでなく、児童生徒の心理的な面でも大きな役割を果たすことができた。

(中條委員)

新型コロナウイルスが感染拡大したことで負の面もあったが、こういった遠隔授業が進んだことはよいことだと思う。今後も状況によって授業形態の改善を期待したい。

(平賀委員)

今までは結核の児童生徒における学習保障の難しさがあったが、こういったICTを活用した授業は、それを克服することができる取り組みであると思う。

(平井委員)

こういった遠隔授業はとても大切であると思う。私が勤める学校の児童も登校することができない状況になったが、遠隔授業のおかげで、学習保障だけでなく友だちとの関わりも維持することができた。

(亀田委員)

遠隔授業について病院側から提案したが、すぐに学校で検討し実施されたことに感謝する。こういった取り組みは、学習だけでなく人との関わりという意味でも大変大切なことであると思う。

3 連絡報告事項

(1) 令和3年度羽曳野支援学校の活動について

① ロボットプログラミング選手権について (大林教諭)

- ・開会式並びに試合の様子
- ・プログラミング的思考の育成

② 全国病弱教育研究会発表について (谷口教諭)

- ・不登校になった児童生徒の実態
- ・学校としての取り組み

③ 適応指導教室等見学について (西垣教諭)

- ・各施設の概要
- ・各施設の活動内容

(平賀委員)

3つの取り組みは素晴らしいと思う。こういった取り組みは、小学校中学校でも課題になっていることから注目すべき内容であると思う。

(平井委員)

私が勤務する学校においても、自信がない児童が多い。不登校になる原因については様々あると思うが、早期の段階で成功体験をどれだけ積むことができるかが大切であると思う。

(亀田委員)

様々な取り組みに感銘した。不登校の児童生徒への関わりは難しいが、閉じこもってしまう前に歯止めをかけ、その関わりを見出し努力していくことが重要と考える。また、そのためにも病院と学校が児童生徒の実態を共有していくことが大切である。

(井上委員)

児童生徒の自主性を大切にされた素晴らしい取り組みであると思う。先生方が一人ひとりの児童生徒を大切にして、考える能力を引き出そうとされていることが伝わってきた。

(中條委員)

昨年度に引き続き、プログラミング的思考を育む取り組みが定着しつつあることにうれしく思う。また不登校の児童生徒への取り組みについても、環境を変えることを大事にしていることはよいことだと思う。

4 第3回学校協議会日程について

今回は2月中旬を予定している。

5 閉会挨拶（校長）

本日はご意見やご感想をいただきましてありがとうございました。貴重なご意見等をもとにして、今後の教育にいかしていきたいと思えます。また新型コロナウイルス感染拡大が、今後どうなっていくか定かではありませんが、児童生徒が安心して学ぶことができる環境も作っていききたいと思えます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。